

迫る「財政の危機」!!

第4次豊岡市行財政改革大綱を策定しました

(2019年12月)



現在、第3次行政改革を進行中ですが、この財政の危機からいち早く脱却するため、さらなる財政効果を生む改革が必要となっています。

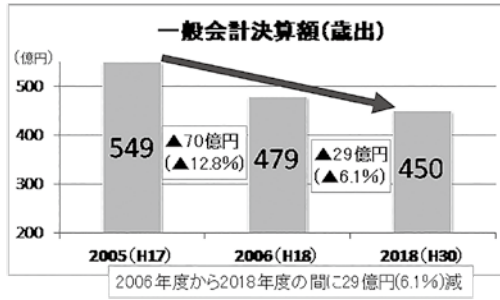
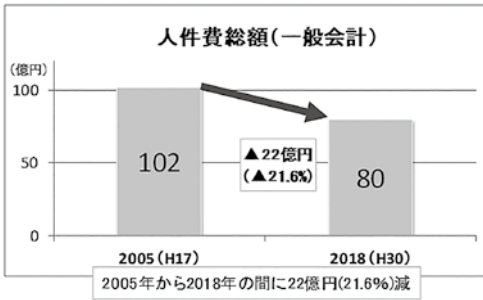
このため、第4次行政改革を2020年度から前倒し取り組むこととしました。

19年12月19日、「第4次豊岡市行財政改革大綱」を策定しましたので、お知らせします。



第4次行財政改革の前倒し

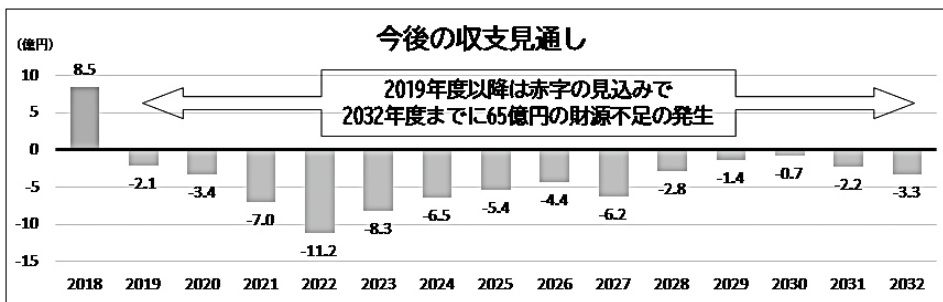
本市の財政状況は今後急激に悪化し、継続して赤字が発生する危機的な財政状況が見込まれます。



これまでの取り組み

市では2006年から3次にわたる行政改革に取り組んできました。

歳出規模を縮小し、人件費も削減してきました。



今後悪化が進む財政状況

しかし、昨年8月に更新した2032年度までの「豊岡市長期財政見通し」では、19年度以降の収支は赤字に転じ、32年度までに65億円の財源不足に陥ると見込んでいます。



《財政危機をもたらす主な要因》

- 歳入減
 - ▷ 人口減少・高齢化による市税収入の減少
 - ▷ 合併市町村に対する合併特例措置の縮減・終了
- 歳出増
 - ▷ 社会保障関係費の増大
 - ▷ 公共施設の老朽化に伴う多額の改修・更新経費の負担

① 市民との共創

- 1 市民と行政との役割分担
- 2 市民等との共創事業の実施
- 3 共創を実現する人と仕組みづくり

② 歳入確保の推進

- 1 既存財源からの歳入増
- 2 新たな財源の確保

取組みの4つの柱

③ 歳出の効果的・効率的な実行

- 1 事務事業の戦略的な立案・廃止
- 2 既存事務事業の効率的な実施
- 3 効率的、効果的な組織構築・人員配置

④ 職員の意識・行動改革

- 1 職員の意欲、能力の向上
- 2 職員が行動しやすい環境づくり
- 3 職員の知識・知恵の共有

第4次行財政改革の取組みの柱

この財政の危機を乗り越えるため、次の四つを取組みの柱として、行政サービスの提供を持続可能とする行財政体質の確立を進めていきます。

① 市民との共創

市民、企業等と行政が、共に新しい価値と目標を創り、共に実践する、「共創」のまちづくりを目指します。

主な取組内容

- ▽各種事務局の点検・見直し
- ▽地域コミュニティとの共創事業の検討
- ▽共創(協働)推進職員の育成

② 歳入確保の推進

市税、地方交付税が減少していく状況のなか、工夫を凝らし、自主財源を確保する取組みを推進します。

主な取組内容

- ▽ふるさと納税の推進
- ▽ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングの推進
- ▽新税導入の検討

③ 歳出の効果的・効率的な実行

財源に限られるなか、効率的な行政運営への取組みをさらに進めます。

主な取組内容

- ▽イベント・補助金の点検・見直し
- ▽ICTを活用した業務効率化
- ▽戦略に対応した組織改編

④ 職員の意識・行動改革

職員自らが改善・改革の「行動」を起こす意識・行動改革を進めます。

主な取組内容

- ▽豊岡市役所キャリアアゲザインアクションプランの推進
- ▽定員管理計画の見直しの検討
- ▽事務改善と改善事例・アイデアの共有



取組期間

2020~23年度

急速に悪化する財政状況に対し、考えられる対策を可能なものから早急に実行に移し、随時取組内容を見直しながら推進します。

目標

行革効果額

年度当たり4億円(一般財源)

取組期間の最終年度には目標額を達成し、歳入の範囲内での歳出を目指します。

第4次行財政改革大綱の全文は、市ホームページで公開しています。

・トップページ▽市政情報▽行財政改革▽大綱・指針など

ページ番号検索

1009032 表示



《問合せ》政策調整課
☎ 21-9022